

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
地域おこし協力隊の受入体制	<p>地域おこし協力隊の職場環境について、県内でもいろいろな声が上がっていることを聞いた。協力隊を受け入れる各自治体の職員の研修など、協力隊の過ごし方に対する理解が進めばいいと思う。</p>	<p>県では、地域おこし協力隊の受入自治体におけるサポート体制の構築を図るため、行政担当者向け研修会を開催するほか、隊員・自治体職員からの相談等に応じる相談窓口を設置するなどしているところです。</p> <p>地域おこし協力隊は、若い世代の移住・交流に効果的であることから、今後とも、受入自治体におけるサポート体制の構築に向け、市町村と連携しながら、定住促進が図られるよう取り組んでまいります。</p>	地域政策課
農業高校等の充実	<p>昨年10月に開催された全国和牛能力共進会においては、日本一の座を取ることができた。鹿児島県、経済連、JA、市町村等がチーム一丸となつて、取り組まれた成果だと思っている。</p> <p>次の北海道大会に向けて、早めに取組を行い、鹿児島黒牛日本一の座を守りたい。</p> <p>その中でも農業高校の生徒による活躍もあり、近い将来、1人でも多くの畜産の後継者が定着することを願っている。</p> <p>そのためには、農業高校、農業大学校の拡大、充実にぜひお願いしたい。</p>	<p>県では、農業高校や農業大学校において、国の農業教育高度化事業等を活用した先進的な農業施設・機械の導入やカリキュラムの強化など、農業教育の充実を図るとともに、オープンキャンパスや出前授業の実施、SNS等での情報発信など、小中学生が農業に関心を持ち、進学してもらえるよう取組を行っています。</p> <p>また、農業高校では、国内外の先進的農家等の視察など、農業の魅力に触れる機会の充実を図るほか、教職員を対象にスマート農業に関する研修を実施し、技術革新にも対応した農業教育の充実にも努めているところです。</p> <p>農業大学校においても、スマート農業やGAP、6次産業化などの教育内容の充実を図るとともに、在学時の資金的な支援を行うなど、入学・就学しやすい環境の整備に努めています。</p> <p>今後とも、関係機関と連携しながら、農業高校と農業大学校の教育内容の充実を図るとともに、その魅力発信に努め、本県農畜産業の将来を担う人材の育成に取り組んでまいります。</p>	経営技術課 高校教育課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
過疎対策	<p>県に過疎対策室等を設置し、県目線で、各市町村の実情に合わせた事業に対して、財政的な問題、それから人的な問題について、3年から5年ぐらいの期間で支援を行ってもらえると、ある程度地域の格差がなくなるのではないかと思う。</p> <p>今のままでは、5年もしないうちに、過疎化が深刻な状況になる地域もある。</p> <p>今対策を打たなければ、過疎化は、難しい面があると考えている。</p>	<p>県では、県過疎地域持続的発展方針に基づいて、移住・定住の促進、地域リーダー等の育成、産業の振興、情報化の推進など様々な施策に取り組んでいます。</p> <p>国の制度である過疎対策事業債や過疎地域持続的発展支援交付金に加え、県では、地域固有の課題解決や地域活性化策等に迅速かつ柔軟に取り組むため、地域振興推進事業や半島特定地域「元気おこし」事業等を実施しています。これらの事業においては、地元市町村や民間団体の皆様と連携を図りながら、地元が主体となった多種多様な取組をきめ細かく支援しています。</p> <p>今後とも、市町村や関係機関、団体等と連携を図りながら、過疎地域の振興と活性化が図られるよう取り組んでまいります。</p>	地域政策課
農家への補助要件	<p>農家への補助事業について、共同利用3名以上や、法人化が要件となっている。</p> <p>地域の就農者の中でも、共同経営に取り組むことができない状況下にあるので、一定の基準を満たす農業については、個人が補助を受けられるよう国へ働きかけていただければと思う。</p>	<p>農家への支援については様々な国庫補助事業や県単独補助事業が措置されており、一般的には共同利用3名以上や法人化が要件とされています。</p> <p>一方で、国の産地生産基盤パワーアップ事業においては、地域協議会等が作成する収益力強化に向けた「産地パワーアップ計画」において中心的な経営体として位置付けられている等の要件を満たした場合は、農業者ごとに計画の実現に必要な農業機械の導入や集出荷施設の整備等の事業実施が可能となっています。</p> <p>具体的な要望につきましては、南大隅町役場及び大隅地域振興局に御相談ください。</p>	農政課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
教員の確保	<p>3年前、先生になりたいという子がいたが、2年も経たないうちに、「もう先生になるのはやめます。私にはできません。」というようなことを言っていた。教員採用試験を受けない子供たちが結構増えてきているのではないかと思うので、それに対して対策が必要だと思う。</p> <p>また、モンスターペアレントや厄介な人の対応を、先生ではなく、県で職員を採用し、その人に対応していただけないか。</p> <p>学生たちの発言を把握して、一つ一つ問題点を解決してもらえれば、学校環境もよくなると思う。そのことで、先生方が安心して、生徒に対応でき、その結果、子供たちにもいい影響が出てくるのではないかと思う。</p>	<p>県教育委員会では、教職員志望者を増やすため、高校生や大学生、一般の方を対象とした相談会の実施や、教員の魅力を発信する動画の作成などのPR活動を行っています。</p> <p>また、教職員がやりがいをもって働ける環境づくりに取り組んでおり、児童生徒の指導や教材研究等に注力できるよう、校務支援システムの導入や教員業務支援員の配置などを行っています。加えて、悩みごとなどを相談しやすい環境づくりのため、管理職に向けた研修を行っています。法的な助言等が必要な場合の「スクールロイヤー」を利用した相談制度も運用しており、弁護士を講師に招き研修を行うなど利用の促進を図っています。</p> <p>今後とも、様々な取組を通して、児童生徒にとってよりよい教育環境が実現するよう努めてまいります。</p>	教職員課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
佐多岬の整備	<p>本土最南端の証明書を求めてたくさんの方が、佐多岬に来られる。</p> <p>南大隅町は高齢化率ナンバーワンの町であり、日頃から何とか観光人口を増やし、町のにぎわいや観光発展につなげられないものかと考えている。</p> <p>佐多岬を訪れた観光客から、「正真正銘の本土最南端はどこですか」と質問を受け、「灯台広場の少し先の、岩場、先端なんです、安全面を考慮して、現在通行止めとしています」と答えると、「ぜひ行けるようにしてください。せっかく最南端にきたので、自分の足で、その最南端の地まで歩いてみたかったです。」と次の訪問に期待して帰られる。</p> <p>本土最南端の整備について、南大隅町へぜひ経済面の支援をお願いしたい。</p>	<p>本土最南端付近は、霧島錦江湾国立公園の特別保護地区に指定されており、公園利用のあり方等については、環境省などと調整する必要があります。また、灯台広場の先は地形が急峻であることから、利用者の安全確保などの課題があります。</p> <p>まずは、環境省や南大隅町など関係機関と現地調査などを行いたいと考えています。</p>	PR観光課
大泊港と種子・屋久を結ぶ航路	<p>大泊から種子島屋久島へフェリーが出るという話が以前あった。</p> <p>現在、鹿児島から指宿へ寄港し、種子島屋久島に発着する高速船が、大泊へ寄港することはできないか。</p> <p>もしこの話の実現すると、確実に観光人口は増え、佐多岬や雄川の滝へ足を伸ばし、雇用も生まれ、まちのにぎわいや、観光発展に必ずつながると思う。</p>	<p>航路新設については、利便性の向上が図られる一方で、需要の確保や経費増大の課題があると考えています。</p> <p>また、このようなことを踏まえ、まずは運航事業者で検討されるものと認識していますが、県としては、運航事業者の意見を伺いながら、観光需要の動向等を注視してまいります。</p>	交通政策課
養殖生けすの増枠	<p>現状の漁協運営はうまくできていると思うが、今後の社会状況を考えると、魚粉を使った飼料の高騰が養殖業者の経営を圧迫し、うまく運営できるかという懸念要素がある。</p> <p>国内の魚の消費は、少子高齢化によって、今後少なくなってくるのではないかと予想される。</p> <p>その中で、漁協の方も、魚の販路を海外へ向けていけないといけないということで、海外では、カンパチよりブリの方が人気が高いため、魚種転換も考えつつ、慎重に運営していきたいと考えている。</p> <p>今後の輸出を見据えた養殖業の増大ということで、県に増大申請を行っている。</p> <p>漁業権の見直しにおいて、是非とも、無理のない範囲で生けすの増枠をお願いできたらと思う。</p>	<p>県では、配合飼料の価格高騰に備える国の制度に加入している養殖業者の負担経費の一部を支援することにより、養殖業者の経営の安定化を図っています。</p> <p>また、水産物の輸出を促進するため、マーケティング調査や関係団体からの情報に基づき、漁協・輸出商社等が一体となって行う販売促進活動や輸出先国のニーズに対応した新商品開発等の取組を支援しています。</p> <p>輸出を見据えた養殖生産量の増大のための生けすの増枠については、漁業調整等の観点から対応が難しいため、既存の枠内で対応ができないかなど、関係漁協等と協議したいと思います。</p>	水産振興課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
大隅半島のインフラ整備	<p>南大隅町は鹿児島市から遠い。高速道路を使う人もいるようだが、ほとんどの人が船舶で移動する。船を使う場合に、乗り遅れたりしたら、30分程度のロスが生じる。</p> <p>錦江湾横断道路の整備について国土交通省へ要望したりしたこともあった。</p> <p>薩摩半島には橋や、高速道路がどんどんできるが、大隅半島はなぜこんなにも整備が遅いのか。</p>	<p>道路の整備に当たっては、地域の要望や整備の必要性、緊急性、地元の協力体制などを考慮し、優先度を総合的に判断した上で整備することとしています。</p> <p>現在、大隅地域においては、農業や観光の振興を図るため、東九州自動車道や大隅縦貫道、さらにはこれらへアクセスする道路の整備を進めています。</p> <p>今後とも、骨格となる高規格道路等を重点的に整備するとともに、地域内の交流を促進する国県道の整備を図り、大隅地域の道路ネットワークの形成に努めてまいります。</p>	道路建設課
耕作放棄地対策	<p>過疎化が進み、今後また農業の従事者が少なくなっていくような気がする。</p> <p>その辺を考えたときに、早めの対策を打たなければ、子供に相続をしても県外に出ている場合などは、どうしても地域の農地は荒れてしまう。</p> <p>そういったところへの対策について、国の助成などあれば大変ありがたいと思う。</p> <p>また、知事の方で御尽力いただければありがたいと思う。</p>	<p>市町村においては、農地が利用されやすくなるよう、担い手への農地の集約化等を推進するため、地域での話し合いにより活用すべき農地を明確化し、農業の将来の在り方や農地の効率的かつ総合的な利用の目標を定める「地域計画」を、策定することとされています。</p> <p>県としては、優良事例の情報提供や研修会等の開催など市町村に対する支援を実施するとともに、地域計画に基づき農地バンクを通じた農地の集約化を進めるなど、地域計画の策定・実行に向けた取組を推進しています。</p> <p>また、景観・蜜源作物の作付や放牧、鳥獣緩衝帯の整備などの農用地保全に取り組む場合、土地利用構想の策定や荒廃農地を含む農地の簡易な整備などの取組を支援する国の事業があります。</p> <p>まずは、地域での話し合いを進めていただき、地域振興局、町農政担当課へ御相談ください。</p>	農村振興課 経営技術課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
錦江湾横断道路の整備	<p>錦江湾横断道路の件について、私が調査したところ、期待される効果、それが5点ほどある。</p> <p>1番目が交通利便性の向上、2番目が産業発展への貢献、3番目が大隅圏の生活利便性の向上、4番目が医療防災ネットワークの強化、5番目が交通網の地域格差解消となっている。その辺を前向きによろしく願いたいと思う。</p>	<p>錦江湾横断道路については、令和3年6月に策定した、かごしま新広域道路交通ビジョン及び計画において、構想路線（将来、高規格道路もしくは一般広域道路としての役割が期待されるものの、現時点で、具体のルートなどが決まっていない道路）として位置付けています。</p> <p>今後とも、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化等を考慮しながら、半島間の往来の程度、経済的効果、事業の採算性、国の協力方針、関係自治体や県民の意向、県議会での御論議等を踏まえ、引き続き、総合的に検討していく必要があると考えています。</p> <p>まずは、平成21～24年度に実施した、どのような条件の下にプロジェクトが成立するか等についての可能性調査の結果や社会経済情勢の変化等を踏まえ、関係機関との意見交換を行うとともに、有識者の意見を聞くなど、情報収集に努めてまいります。</p>	総合政策課
大隅縦貫道の整備	<p>吾平から大中尾への山越えの道について、やっと昨年着工という形になったが、この道路は、自衛隊の車両や、ブロイラー、豚などの大きな農場の関係で飼料運搬車が走行しており、離合がなかなか怖いというような状況である。</p> <p>着工したからには、ぜひ早期完成をお願いしたい。</p>	<p>大隅縦貫道の吾平大根占田代道路については、令和4年11月に事業説明会を開催し、現在、詳細な設計を行っており、今後、できる限り早い時期に用地買収に着手したいと考えています。</p> <p>また、県道鹿屋吾平佐多線の大中尾工区については、令和4年3月に一部改良工事に着手しており、引き続き、用地買収や改良工事等を進めることとしています。</p> <p>大隅縦貫道は、農業や観光の振興を図る上で重要な道路でありますことから、早期完成に向け、引き続き重点的な整備に努めてまいります。</p>	道路建設課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>スポーツ・コンベンションセンターの整備</p>	<p>鹿児島市のドルフィンポートの跡地に計画している新しい総合体育館の整備について、度々新聞に出ているが、早くしないと物価も上がり、1割ぐらい上がったら、250億円かかるのが、270億円になる。 品物もほとんど10%値上がりしてきているので、早く整備してもらえないか。</p>	<p>スポーツ・コンベンションセンターについては、基本構想に基づき、スポーツ振興の拠点機能に加え、コンサートやイベントなど多目的利用による交流拠点機能を備えた施設として整備することとしています。</p> <p>加えて、同センターについては、本港区エリアの立地を生かし、施設利用者のみならず県民や観光客が気軽に立ち寄れるよう、錦江湾や桜島を一望できる展望テラス、カフェなどの癒やしの空間を創出するなど「開かれた施設」として整備することとしています。</p> <p>令和4年度は、同センターの整備・運営手法について、想定される施設整備費や管理・運営費を少しでも低減させるとともに、県民の皆様に対するより良いサービスを提供する観点から、PFI等手法の導入について調査検討しました。</p> <p>調査に当たり、公共が自ら整備等を行う従来型手法と費用総額や管理運営の効率性などの観点から比較し、PFI等手法の導入の適否について検討した結果、PFI方式の導入が最適としたところです。</p> <p>このため、令和5年度は、PFI事業の実施に向け、事業者の公募に必要となる資料などを作成することとしています。令和6年度には、公募によってPFI事業者を選定し、契約締結に向けた手続を進めることとしています。契約締結後の令和7年度から設計・建設に入り、令和11年度を目途に供用を開始したいと考えています。</p> <p>県としては、基本構想でお示したスケジュールに基づき、同センターの整備・検討を進めてきており、引き続き、県議会や県民の皆様に対し、丁寧に説明を行いながら、同センターの整備に向けた取組を着実に進めてまいりたいと考えています。</p>	<p>スポーツ・コンベンションセンター整備課</p>

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
大規模小売店舗の立地	<p>規制緩和により、大型店が立地してもいいというような法律が作られたため、この小さな町に、大型店が何軒とできた。</p> <p>大型店が出店して、1、2年は影響はなかったが、その後毎年毎年影響が出て、売上が最盛期の10分の1以下になってしまった。</p> <p>規制緩和で、大型店がこの小さな町に出店されたということに対して、どう考えるか意見を聞いてみたい。</p>	<p>人口減少や大型店の進出等により、来訪者が減少するなどの影響を受けている商店街においては、住民やコミュニティが期待する多様なニーズに応える場への自己変革が求められていることから、県では、専門家によるセミナー開催やアドバイザー派遣等により、ビジョンづくりへの支援を行ってきたところです。</p> <p>引き続き、市町村や商工団体等と連携し、魅力ある商店街づくりを支援してまいります。</p> <p>なお、中小企業者の方々への支援については、サービス事業者が行う、Webを活用した商品・サービスの販売等による販路開拓や機械装置等導入による生産性向上のための取組等に要する経費について補助を実施しています。</p> <p>また、かごしま産業支援センターに設置している「よろず支援拠点」では、売上拡大のための店舗改善やECサイト構築・運営など、経営に関するあらゆる相談に対して、各分野の専門家（コーディネーター）が助言を行っていますので、御活用ください。</p>	<p>商工政策課</p> <p>中小企業支援課</p>
肝属郡医師会立病院の移転	<p>肝属郡医師会立病院がもう古くなったということで、別のところに移転し、新しく病院をつくる計画が進められている。</p> <p>今まで移転する病院に対して、県から補助をした例があるか。あるのであれば、ぜひ今度の病院も、県から補助金を出してもらえればと思う。</p>	<p>肝属郡医師会立病院の再整備に当たっては、令和5年度に実施設計を、令和6年度から建設工事を行うものと聞いています。</p> <p>病院施設や設備については、各種補助メニューがあり、既に関係市町村へ御案内をしているところです。</p>	<p>保健医療福祉課</p>

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
障害者の社会参加	<p>農場で農福連携の活動を積極的に進めてきているが、農業と福祉との限定的な関係性を超えて、林業、水産業、もしくはそれ以外の加工業、サービス業に至るまで、町内の多くの経済活動の中に、障害のある方々の居場所と役割がお互いにここ数年共有されるようになってきたということは、大変ありがたいと思っている。</p> <p>県内には多くの障害者施設、福祉施設、社会福祉法人さらにはそこを利用されている多くの障害者の方がおられる。</p> <p>多くの障害者の方々は、障害の差こそあれ、あらゆる多様性でもって、その役割を地域の方々と共有する、潜在的な可能性は大変大きなものを持っていると思う。</p> <p>各地域地域の主体的な取り組みが積極的に行われるべきではあるが、県においては、ぜひそれをバックアップする行政のいろんな啓発活動、情報発信をもっと力を入れてやっていただけたらと思う。</p>	<p>農業法人や障害者就労施設等が農福連携に関する理解や認識を深められるよう、研修会の開催や農福連携ガイドブックの作成・配布、取組事例の作成・紹介など、引き続き農福連携の推進を図ってまいります。</p> <p>また、県民の皆様様に農福連携の取組を広く知ってもらうため、障害者就労施設等で生産された農産物や加工品などを販売する農福連携マルシェを開催するほか、県ホームページや広報媒体の活用による啓発活動及び情報発信に努めてまいります。</p> <p>さらに、農業以外の分野においても、働く意欲のある障害者の方々がその適性に応じて能力を十分発揮し、工賃水準の向上が図られるよう、障害者就労施設が提供できる物品・サービスの情報を県ホームページやイベント等において、周知・広報を行うなど、官公庁や民間企業からの受注拡大の促進に取り組んでいるところです。</p> <p>今後とも、様々な業種で障害者の方々が活躍できるよう、関係機関と連携しながら多様な就業の機会の確保に努めてまいります。</p>	障害福祉課 経営技術課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>福祉と教育との連携</p>	<p>私が、この南大隅町で生まれて、3、4歳の頃まだ物心のつかないうちから両親が障害者施設を立ち上げて経営していた。 私はその両親の背中を見ながら、生活の中で、障害のある方々と一緒に暮らす、生活の多くの時間を共有するということが、結果的に、その環境で学んできた。 従って障害のある方々のいろいろな個性など、当然学校で学ぶということもあったが、それ以前に感覚的に理解するということがたまたま私はできる環境にあった。 そのことによって、障害者であってもその障害の弱いところを個性と捉えながら頑張っていけるんだということを理解してきたつもりである。 ぜひ、多くの子供たちにとっても、この経験は非常に大事ではないかと思う。これからの持続可能な社会の中での大変重要な要素だと思われるので、農業と福祉が連携して、福祉と教育が連携する、この視点も今後非常に重要ではないかなと思うので、そのことに対しての御意見を伺いたい。</p>	<p>教育の場においては、小・中学校では、各教科だけでなく、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、児童生徒の発達段階に合わせた「福祉の心」を育む教育や特別支援学校との交流など、福祉・ボランティアに関する体験活動の充実を図っています。このうち、体験活動は、市町村社会福祉協議会等と連携し、車いすやアイマスクの体験、社会福祉施設訪問等が行われています。 高校では、例えば農業系と福祉系の学科のある学校において、介護福祉施設入所者とのミカン収穫体験や特別支援学校生徒との交流学习を行うとともに、相互の学習内容の理解を深めるために合同発表会を開催するなど、農福連携の理解促進に取り組んでいます。また、障害者の権利擁護の説明や、手話の体験学習など、県政出前セミナーも行っています。 こうした教育の場での取組に加え、県では、障害のある人となない人のふれあい体験をつづった「心の輪を広げる体験作文」や障害のある人に対する理解を広めるための「障害者週間ポスター」を小・中学生等を対象として募集しており、優秀な作品を毎年11月に開催する県障害者福祉大会において表彰しています。 また、12月の障害者週間のイベントとして実施している「あったか交流フェスタ」の中で障害者スポーツ体験コーナーを設けるなど、子どもたちの障害のある方々に対する理解を広める取組を実施しています。 今後とも、児童・生徒の障害や障害者に対する理解をより一層深められるよう取り組んでまいります。</p>	<p>障害者支援室 障害福祉課 義務教育課 高校教育課</p>

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
観光振興	<p>観光においては、そこに滞在する、泊まってもらうということがない以上は、魅力ある観光資源を生かし切れないんだろうというところで、数年前から佐多岬観光ホテルが機能してないという状態を、観光協会として非常に重要な課題と認識している。</p> <p>現在町の行政当局においても、その課題を強く認識していただいて、何とか佐多岬観光ホテルを生かす形で、南大隅町の観光振興に大きく貢献してほしいということで、協会の方にも、叱咤激励をいただいている。</p> <p>ぜひこの問題を、南大隅町だけでなく県としても、バックアップしていただければと思う。</p>	<p>地域の観光振興については、各地域の幅広い関係者が連携して取り組むことが肝要であると考えます。</p> <p>県においては、稼げる観光地域づくりに取り組む地域のDMO等に対し、専門家派遣や、地域資源磨き上げ、観光コンテンツ造成等の実践事業への助成による伴走支援に取り組んでいます。</p> <p>まずは、PR観光課観光地域づくり等担当に御相談ください。</p>	PR観光課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
自転車の観光での活用	<p>スポーツ自転車を使って鹿児島県の錦江湾を周回する観光ツーリズムというような話も伺っている。</p> <p>南大隅町の自転車ということに留まらない、県としての自転車の可能性を、知事の考えとして伺えたら、今後、南大隅町の観光協会としてもこの自転車について積極的に取り組んでいきたいと思う。</p>	<p>県では、県内市町村及び関係団体等の連携・協力により「県サイクルツーリズム推進協議会」を設置し、受入環境整備、情報発信を進めているところです。</p> <p>同協議会において、本県の自然・景観など豊かな地域資源を活かしたサイクルモデルルートを昨年度までに23ルートを設定し、今年度は錦江湾奥ルートを設定するなど、県内全域への自転車による周遊観光を推進しています。</p> <p>なお、当協議会への入退会は任意となっておりますので、貴観光協会も御参画いただきまして、本県サイクルツーリズムの推進による観光振興に御尽力いただけますと幸いです。</p>	PR観光課
学生等の意見の傾聴	<p>ぜひ県の方に、学生、中高生の意見、子供たちの意見を多く聞いてほしいと思う。</p> <p>南大隅町では東京の大学生、鹿児島島の大学生などの学生との交流を10年以上前からしており、弊社でも、4年ほど前から学生の受け入れをしている。2020年からは、地域の保育園と一緒に木育活動というものを始めている。</p> <p>私たち大人は、どうしても過去の経験から物事を捉えがちだが、20代前半の学生は、未来発想で物事を捉えるのでとてもおもしろいなと思う。</p> <p>経験値の少なさから思慮の不足のようなものはあるが、経験値は私たち大人が補えばよい。この若い世代の、森林に対する未来創造図は、侮れないと思う。</p> <p>また、学生は地域コミュニティの人情に感動しているように感じている。</p>	<p>郷土に愛着を持ち、地域に活力をもたらす人材を育成するため、平成28年度から知事と高校生が意見交換を行う「高校生とかごしまの今と未来を語る会」を実施しており、令和4年度までに県内8校の公立高校で実施しています。</p> <p>大隅地区では、平成30年度に鹿屋農業高等学校で実施し、農業クラブや和牛甲子園への取組についての発表を通して、将来の夢や進路について知事と高校生が意見交換を行いました。</p> <p>今後も引き続き、この語る会を開催し、学生との意見交換の場を設けていきたいと考えています。</p> <p>また、県内の大学において、知事等が県政の課題等について学生向けに講義を行っています。講義中には質疑応答の時間を設けており、学生から県政に対する意見等を直接伺う機会となっております。</p>	総務福利課 計画管理室

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>木育の推進</p>	<p>行政、事業の取り組み、子育てなども全て、これらの取り組みを持続的に支えるのは教育だと実感している。</p> <p>ICTやITもあるが、自然を中心にした教育というのが、必要だと思っている。</p> <p>実際、保育園や小学校の先生からも、この自然を中心に置いた木育が大事で、今後続けていきたい、広げていきたいということを聞くので、ぜひ県の方にも取り組んでほしい。取組の時期を逃してしまうと、後々問題は雪だるま式にどんどん大きくなり、かえってお金と手間がかかってしまう。今すぐは結果は出ないけれども、ぜひそこに、行政の支援をお願いしたい。</p>	<p>県では、木育の取組として、小学校等における木工教室を実施しているほか、令和2年度からは保育園等における木製教育資材（ブロック）の導入など木育環境の整備に対する支援や、木の良さ等について教育できる人材「木育インストラクター」を養成しています。</p> <p>これまでに、インストラクターによる木育が保育園や地域のイベント等において実施され、令和2年度約700人、令和3年度約1,000人、令和4年度約5,000人の方が、森林の役割など木材利用の意義を学んでおり、木育の取組が広がってきています。</p> <p>今後とも、関係団体と連携しながら木育に取り組むことにより、子どもの頃から県民が木とふれあうことを通じて森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成を図ってまいります。</p> <p>県内の小・中学校では、地域の自然体験活動を通して、自然保護や環境保全への意識を高める環境教育に取り組んでいます。</p> <p>また、農業高校では、林業を学ぶ学校が2校あり、森林の持つ多面的機能や林産物の利活用、学校林を活用した山林実習など、実践的・体験的な学習活動を行っています。</p> <p>さらに、森林組合等の関係機関と連携した林業インターンシップの実施や林業に必要な資格取得にも取り組んでいます。</p> <p>そのほか、将来鹿児島に住んで郷土の発展を支えようとする人材を育成するため、中・高校生を対象に、研修やフィールドワークによって未来を担う青少年の志を育む「かごしま 夢 有為塾」を開催するなど、郷土教育の充実を図っています。</p> <p>今後とも、このような取組を続け、地域の産業を支える人材の育成に努めてまいります。</p>	<p>かごしま材振興課</p> <p>高校教育課</p> <p>義務教育課</p> <p>社会教育課</p>

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
林産物・林業のPR	<p>林業における稼ぐ力を引き出すために、価格をどう転嫁するか、市場のどこに持って行って、ブランド化するかというのは、企業努力とは別に、県でPRに取り組んでほしい。稼ぐ力はどんなに企業が努力しても、行政が一緒でないと、出口の部分が難しい。先日、博多にも行かれて物産展でPRされたように、それぞれ一次産業のPRをしてほしい。</p> <p>またPRの一つとして、県の地場産業について、県民、一般市民への啓発を、教育などで行政で主導してもらえると、担い手の育成にもつながるのではないかと思う。自分たちも、町で、そのきかけとなるような取組をつくっていききたいと思う。</p>	<p>県では、かごしま材の付加価値を高めるため、日本農林規格（JAS）製品の生産体制の整備や、これら製品の県内外への販路促進活動の支援を行うとともに、木材まつりをはじめとする様々なイベント等で県産のCLT、JAS製材品、認証かごしま材等をPRしています。</p> <p>輸出については、中国向けの丸太がほとんどであることから、より付加価値の高い製材品の輸出に向けて、トライアル輸出の支援などを行っています。今後とも、関係機関・団体等と連携しながら、品質・性能の確かなかごしま材のPRに取り組み、本県の林業・木材産業の「稼ぐ力」の向上を図ってまいります。</p> <p>また、教育の観点からは、小・中学生、高校生等を対象に、森林・林業の現状や役割等に関する学習、植樹やしいたけ栽培等の体験活動、木材生産や製材・加工、木造住宅建築等の現場等の見学を実施しています。</p> <p>さらに、県林業担い手育成基金と連携し、WEBサイト「鹿児島きこり塾NET」を活用した林業の仕事や魅力についての情報発信を行っています。</p> <p>県としては、青少年に対し、林業の仕事や魅力を発信し、理解を得ていくことは、将来の林業を担う人材を確保していく上で有効であると考えており、今後とも関係機関・団体等と連携しながら、これらの取組を進めてまいります。</p>	かごしま材振興課 森林技術センター 森林経営課
農業の稼ぐ力	<p>農業用資材であったり、動力光熱費は、去年からずっと上がり続けている。</p> <p>まだまだ上がっていくのではないかという状況の中で、農家は、意外に他の産業に価格転嫁がなかなかできない商売だと思っている。</p> <p>メディア等で稼ぐ力の向上という言葉をよく聞いており、すごくいい言葉で力もあるし、いいなと思っているが、今のこの現状で、どうやって稼ぐ力を向上させていけばいいのかと思う。</p> <p>ビジョンとか政策名であったり、県からの支援とか、そういうものがあれば考えを教えてください。</p> <p>重油関係の暖房には国のセーフティネットなどで補助等があるが、最近は、どちらかというとヒートポンプ、電気を使った暖房の方が増えてきている。そういう中で、今、新電力会社が受入れを全くしない状況で、電気代金が、特に1月以降上がってるので、重油同様の支援をしていただけたらありがたい。</p>	<p>県では、「かごしま未来創造ビジョン」において、農業の「稼ぐ力」の向上(所得の向上)に向けた施策の展開に努めているところです。所得の向上には、販売量の増加、販売単価の向上、生産コストの低減に取り組む必要があります。例えば、販売量の増加については、生産の基盤強化のための農地の集積・集約化による規模拡大、販売単価の向上については、高収益作物への転換のための農業施設や機械の整備、生産コストの低減については、ヒートポンプなど、省エネ機械の導入推進などに取り組んでいるところです。</p> <p>加えて、農産物生産コスト低減対策（園芸部門）リーフレットなどを作成し、生産コスト全体の削減に関わる技術の推進を図っているところです。</p> <p>生産資材価格の高騰に関して、各地域振興局・支庁に相談窓口を設置しておりますので、御相談ください。</p> <p>なお、電気料金については、国はエネルギー価格の高騰により厳しい状況にある企業等の負担を軽減するため、「電気・ガス価格激変緩和事業」により、令和5年1月の使用分から、使用量に応じた料金の値引きを行っています。</p>	農政課 農産園芸課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
花のPR	<p>花農家、花を売る花屋さん、中卸業などの花き業界は、コロナ前から、正直あまり景気が良くなかったと思う。</p> <p>そういう中で、花を飾る文化、鹿児島でいうとお墓を花で飾る文化、これがすごく薄れてきていると思う。昔から鹿児島にあったこういう文化が薄れてきているというのが、一番お花が売れなくなってきた原因ではないかなと思う。</p> <p>この辺を踏まえて、県の方からPRをしていたければありがたい。</p>	<p>県では、花き関係団体と連携し、「かごしまの花」をPRするため、「フラワーフェスタinかごしま」や「フラワーコンテスト」を開催するとともに、子供たちの花に対する関心を高めるため、小学生を対象としたフラワーアレンジメント教室を実施しています。</p> <p>また、令和2年度からは、コロナ禍で消費が低迷した花きの利用拡大・消費喚起を図るため、空港や駅、商業施設等における花飾り展示を実施したところです。</p> <p>今後も、花きの消費拡大を図るため、県民に対する「かごしまの花」のPRに努めてまいります。</p>	農産園芸課
植樹箇所の整備	<p>小学校の子供たちが桜を植樹してきている。辻岳の8合目ぐらいにある駐車場にも何十本もの桜が植えられているが、今、台風時の残土が片付けられずそのままの状態で、荒れ果てている。</p> <p>しっかり整備して、桜の名所にしてほしい。</p>	<p>当該場所は、南大隅町の管理する林道沿いの町有地であることから、残土の片付けや今後の整備などについては、まずは南大隅町に御相談ください。</p>	PR観光課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
老人会の支援	老人会の支援をよろしくお願ひしたい。	<p>老人クラブの皆様には、日頃から、地域を支える貴重な担い手として様々な活動に御尽力いただいていることから、老人クラブの現状を踏まえ、令和5年度からは、これまで補助の対象としていなかった会員数30人未満の老人クラブに対しても、活動状況や地理的条件など一定の要件を満たす場合は、助成の対象としているところです。</p> <p>皆様におかれましては、今後とも地域の中核的組織として、ますます御活躍くださいますようお願い申し上げます。</p>	高齢者生き生き推進課
津波等の際の避難場所	<p>桜島が爆発した時や南海トラフ地震の際の避難場所をどう考えているか。</p> <p>桜島が爆発した際には南大隅町は避難場所になるのではないかと。また、南大隅町は海が一番近いところにあることから、津波の際の避難場所はどうなるのか考えている。</p>	<p>津波災害時の避難場所については、市町村が災害対策基本法に基づく指定緊急避難場所を指定しています。なお、横別府地区では、「横ビュー高原ふれあい館」が指定されており、南大隅町では、令和5年1月1日現在で、39箇所が指定されています。</p> <p>また、桜島が大規模噴火し、全島避難を行う場合、鹿児島市の計画では、海路で鹿児島市街地側へ避難するか、陸路で垂水市や霧島市を経由して鹿児島市街地側へ避難することとなっています。</p>	危機管理課 災害対策課
南大隅高校の存続	<p>南大隅高校はあと2、3年で、創立100周年を迎える伝統ある学校。私はこの100周年を南大隅高校生として迎えることはできないが、私の母や祖父の通った学校でもあるので、そういう学校の生徒数が減少することで、学校の廃校につながるということは、心苦しい部分がある。まだ廃校という話にはなっていないが、やはり人口減少はそこにつながっていく道でもあるのではないかと思う。</p> <p>南大隅高校が実施している地域未来計画という取組であったり、ほかにも自転車部の活躍というのを取り上げることで、少しでも多くの方に知ってもらい、生徒数が減る中でも行きたいという人が増えれば、存続することができるのではないかとと思うので、そこに向けての取組が何かできたらと考えている。</p>	<p>現在、県教育委員会では、小規模県立高校の教育活動の充実を図るためのサポート事業や、県立高校の魅力動画を発信するプロジェクトなどの取組を通して、公立高校の魅力向上を進めています。</p> <p>現在の南大隅高校の募集定員は、商業科2クラス80人ですが、今年度は40人が入学し、前年度比で増加しており、同校の特色あるコース制の導入や自転車部による学校活性化など、南大隅高校の魅力が中学生へ伝わった成果だと考えます。</p> <p>また、同校は、南大隅町の支援を受けて、全国から生徒を募集する「地域みらい留学」に参加しており、その制度を活用した入学者も増加傾向にあります。</p> <p>今後も、公立高校の魅力を高める取組を進めてまいります。</p>	高校教育課

知事とのふれあい対話（南大隅町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
奨学金制度の情報発信	<p>大学進学をすると多額のお金がかかってしまうので、奨学金制度を利用するという考えがあると思うが、その奨学金は給付型ではなく、借りる形になり、やはり30歳近くになるまで返還しなければならぬという情報を知った。</p> <p>私自身はそういうことを直接聞いたのではなく、SNSを通じて知った。奨学金の種類や制度の詳しい情報を直接聞く機会があったら、自分のお金の使い方であったり、これからの進路先のことでももう少し詳しく考えられると思うので、そのような情報提供の場をもう少し増やしたら、受験生であったり、将来やりたいことをする人にとっても、少しでも支えになると考える。</p>	<p>県では、県育英財団の奨学金事業について、学校への募集案内、高校3年生等の保護者へのリーフレット配布とともに、県の広報媒体（ホームページ、市町村広報用メール、包括協定企業（イオン等）へのポスター掲示等）やSNS（Facebook）の活用、鹿児島労働局との連携による情報発信等により、周知を図っているところです。</p> <p>また、直接学校を訪問し、制度を説明するとともに、生徒や保護者へ募集案内の配布を依頼するなど、周知を図ることとしています。</p> <p>なお、県内の団体が行っている主な奨学金についても、県のホームページにリンク先を掲載して情報提供を行っていますので、御活用ください。</p>	総務福利課